

# 日本近代の建築保存方法論

——法隆寺昭和大修理と同時代の保存理念——

青柳憲昌（立命館大学准教授） 著

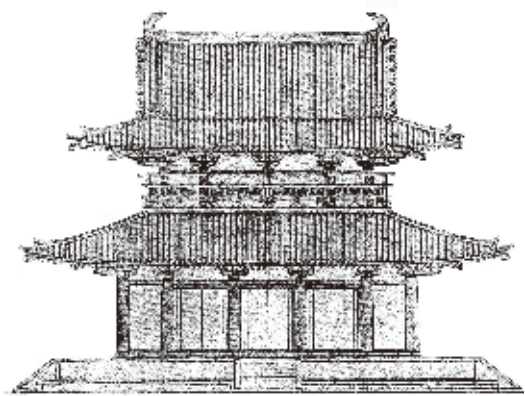
本体価 12,000 円+税

A 5 判上製函入 本文 388 頁 口絵 4 頁 ISBN 978-4-8055-0876-3 C3052 2019 年 12 月刊行

## 今、なぜ文化財修理史なのか——

「日本的なもの」を求める気運が醸成されつつある現代において

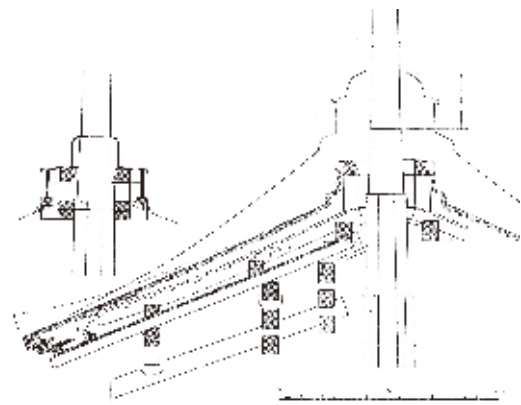
「日本文化」の発信源としての「文化財」の本質を解明する。



建築史家大岡實による法隆寺金堂復原案（1948）



試作復元された法隆寺金堂鷗尾（1954）



法隆寺五重塔五層目屋根構造復原図（慶長修理後）

日本近代の文化財修理史において、「復原」をめぐる保存思想はどのように形成されたのか。本書は、主として国宝保存法（一九二九〜五〇）が適用されていた昭和時代前半期の建造物修理に焦点をあて、歴史的建築の形や色の「復原」のみならず、工事施工や調査手法などの修理工事の技術的側面を含めてその実態を解明し、当時の修理技術者たちの保存思想について論じるものである。そして、昭和九（一九三四）年に開始された法隆寺昭和大修理の現場を中心に、日本近代に固有の建築保存方法論が確立されたということを指摘し、建築を「保存」という行為そのものに内在している本質的な問題についての考察を加えつつ、それが現代の保存に何を示唆しているのかを問い直す。

……（中略）……

今日我々が目にすることのできる「文化財」は、たまたま近代までに残った遺物が凍結的に保存されて伝来したものではなく、近代国民国家の形成過程において、優れて政治的な意図のもとに創り出されたものであったことは諸先学が等しく指摘するところである。すなわち「文化財」とは、その一面において、近代人によって日本の過去の遺物が再解釈され、あるべき「日本の伝統」として国民に向けて提示されたものである。……（中略）……

現在、「日本的なもの」を模索する政治社会的・文化芸術的な動きがあるなかで、その発信源としての日本の「文化財」が創造され維持される仕組みを解明することは、建築史家や美術史家のみならず、現代あらゆる創造者にとつても意義があるだろう。

それは、とりもなおさず、木造古建築の精華を眼前にして、近代の修理技術者たちと自らの距離を計測することにほかならないのである。

（「序論」より抜粋）

# 目次

## 序論

- 第一節 研究の目的と意義——今なぜ文化財修理史なのか
- 第二節 従来の研究
- 第三節 国宝保存法時代の行政機構、法隆寺昭和大修理の修理機構

## 第I部 昭和前半期の修理事業における建築保存方法論

### 第一章 昭和前半期の建造物修理に示された保存概念

- 第一節 緒言
- 第二節 国宝保存法時代における修理技術者の役割
- 第三節 国宝保存法時代の建造物修理に示された「保存」概念
- 第四節 雑誌『清交』に見られる昭和10年代の修理技術者の「修理」観
- 第五節 雑誌『古建築』に見られる昭和20～30年代の修理技術者の「修理」観
- 第六節 法隆寺伝法堂修理に示された大岡實の復元主義
- 第七節 小結

### 第二章 昭和初期における様式概念の変容と修理方針

——禪宗様（唐様）仏堂の復原修理を通して

- 第一節 緒言
- 第二節 「唐様」概念の構成要素と昭和初期における概念変容
- 第三節 明治期から戦後までの復原修理における「唐様」概念の反映
- 第四節 昭和初期における「唐様」仏堂の復原方針の変化
- 第五節 小結

## 第II部 法隆寺昭和大修理の建築保存理念

### 第三章 法隆寺昭和大修理初期工事における武田五一の理念と手法

- 第一節 緒言
- 第二節 法隆寺昭和大修理事業の実現に向けた聖徳太子奉賛会の役割
- 第三節 武田五一の法隆寺昭和大修理への関わり方
- 第四節 武田五一の保存理念
- 第五節 武田五一の法隆寺修理への批判
- 第六節 小結

### 第四章 法隆寺金堂・五重塔修理に向けた大岡實と浅野清の基本構想

- 第一節 緒言
- 第二節 全解体修理の決定と基本方針の策定
- 第三節 金堂火災以前の工事事務所の保存理念と、それ以降の後退
- 第四節 法隆寺の価値の「保存」と復原方針の背反性
- 第五節 小結

### 第五章 昭和前半期における建築保存概念の形成過程——〈建築様式〉の解釈と再現

- 第一節 近代保存修理史における法隆寺昭和大修理の象徴性
- 第二節 修理技術者の保存理念——〈建築様式〉の建築技術史的解釈と再現
- 第三節 近代的建築保存方法論の確立

## 終章

- 第一節 昭和前半期の修理事業における建築保存方法論
- 第二節 法隆寺昭和大修理の建築保存理念
- 第三節 歴史的建築の保存修理に内在する矛盾と文化的意義

## 資料編

- 資料1 国宝保存法（昭和4年3月28日法律第17号）
- 資料2 「国宝建造物維持修理要項」（昭和15年3月7日文部次官決定）
- 資料3 古宇田實「法隆寺東院伝法堂ノ修理ニ就テ」（昭和15年）
- 資料4 大岡實「伝法堂現状変更ニ関スル大岡囑託ノ意見（保存課長宛書面ヨリ抜萃）」（昭和15年）
- 資料5 国宝保存法時代の修理工事の「現状変更」一覧

### 著者略歴

青柳 憲昌（あおやぎ・のりまさ）

立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授。博士（工学）。1975年、東京都生まれ。1998年、東京工業大学 工学部 建築学科 卒業。2002年、同大学 大学院 理工学研究科 建築学専攻 修士課程 修了。2008年、同大学院 博士後期課程 修了、博士号取得。2008年より東京工業大学 大学院 助教。2013年より立命館大学 講師、2018年より現職。2013年より同大学 歴史都市防災研究所 研究員（兼務）、2016年より法隆寺金堂壁画保存活用委員会 専門委員（アーカイブWG 座長）。

### 〈主な著書〉

『日本の建築意匠』（共著、学芸出版社、2016）。『建築史家・大岡實の建築——鉄筋コンクリート造による伝統表現の試み』（共著、川崎市立日本民家園、2013、日本建築学会 著作賞受賞）。『文化遺産と〈復元学〉』（共著、吉川弘文館、2019）。『古経楼・富士見亭の建築と意匠——五島美術館古経楼・富士見亭修理工事報告書——（世田谷区文化財調査報告集23）』（共著、世田谷区教育委員会、2014）。『今庄宿——伝統的建造物群保存対策調査報告書——』（共著、南越前町観光まちづくり課、2019）ほか。

## 関連書籍

### 鈴木嘉吉建築史論集【全2巻】

#### 古代寺院僧房の研究

本体価 25,000円＋税

僧の住居である僧房を研究対象とする。元興寺極楽坊本堂・禪室、法隆寺聖霊院・東室など、国宝・重文の解体修理に携った経験から、諸堂の遺構を考古学的・建築史的に当初の形態に復原して古建築の検視を行い、古代の住宅の実体を解明した記念碑的業績である。

B5判上製函入 本文420頁 口絵16頁 挿図56点 図面95点 ISBN 978-4-8055-0762-9

#### 古代寺院建築の研究

本体価 32,000円＋税

飛鳥・白鳳時代、平安時代以降、古代建築の構造などの章立てで、法隆寺の再建非再建論争について独自の新再建論を提示し、また薬師寺の移建の経緯などを語る。永年古代建築の解体修理に携った経験と歴史観から、鈴木建築史学の詳細を提示する。

B5判上製函入 本文580頁 挿図383点 ISBN 978-4-8055-0763-6

### 関野貞日記

関野貞研究会 編

本体価 19,000円＋税

わが国の古建築研究のパイオニアであり、近代の文化的保護の基礎を築いた関野貞（1868-1935）の手控えとしての私的・公的記録を記した日記・日録の翻刻。日本、朝鮮、中国における文化財調査・保護政策の策定から、近代日本の文化財行政の発展過程が克明に記述されている重要資料。【在庫僅少】

A5判上製函入 本文834頁 口絵4頁 挿図272点 ISBN 978-4-8055-0617-2

# 中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-10-1  
IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱い